

はないかという点である。そのような考えが出てくると団員確保が益々困難になるのではないかと心配している。鬼北町では、住民一人ひとりが防災の意識をもち、地域防災力向上の推進を図ることが肝要であると考えている。

〈町有林管理と 松食虫対策について〉

問 保安林内の松を間伐として伐採できないか。

答 県から権限委譲により、町の権限となつていたので、間伐を実施することは可能であるが、保安林の指定施業要件というものがあつり、この父野川の町有林の場合の間伐可能量は、材積率の20%となつている。昨年実施した毎木調査の松の材積量は、980m³であるため、このうち間伐は、196m³が実施可能である。

〈間伐時の収入見込額について〉

答 日吉原木市場に価格の動向を問い合わせたところ、現在1m³当たり1万3,000円から1万5,000円で推移しているとのことである。そこで売り上げを平均値で算出すると、275万円程度が見込まれる。

一方、これにかかる伐採、搬出、運賃、市場手数料などの経費は、間伐のため作業効率が悪く、1m³当たり1万2,000円程度かかるものと予測されるので、235万円程度が必要となり、売り上げ

利益は40万円と推計している。
問 松が自然に育つ環境整備について。

答 松の生育条件を整備すると、自然に松は生育すると思われるが、この条件整備についても経費はかかる。議員のご指摘は十分理解しているが、費用対効果の点など経済性を考慮すると、早急な対応ができたいものと考えている。

井 上 博 議員

〈延川町営住宅について〉

問 平成18年度および19年度の建設設計業者について。

答 平成18年度が松山市の鳳建築設計事務所、平成19年度が松山市の大建設計工務である。

〈浄化槽市町村整備 推進事業について〉

問 平成19年度の設置台数（月別）と金額について。

答 平成19年度設置基数は、20基である。月別設置数と金額は、5月が3基234万1,000円、6月が2基171万8,000円、8月が2基170万3,000円、9月が2基317万2,000円、10月が1基73万2,000円、11月が8基408万4,500円、12月が2基152万2,500円である。

問 入札および落札金額が下がっている理由について。

答 昨年の11月に町内業者が1業者増加したこととあわせて、事業量が減少したことによる、競争の原理が働いた結果ではないかと判断している。

〈松野町との合併問題について〉

問 両町の町長と議員の意見交換会の開催について。

答 合併協議会の委員として町長、議長、議員が名を連ねることから、その場での協議が意見交換の場となると考えている。

問 住民説明会の参加人数について。

答 6会場で総数368人である。地域別には、近永地区が70人、好藤地区が31人、愛治地区が58人、三島地区が50人、泉地区が59人、日吉地区が100人である。

〈町民の反応について〉

答 住民の方々から、さまざまな意見があつた。個々の意見は、賛否両論あることなので、差し控えるが、全体を通しては、法定合併協議会を設置し、その中で慎重かつ十分な協議を行う必要があるというご意見が多かつたと感じている。

問 町民の意思をどのようにして確認するのか。

答 早期に法定合併協議会を設置して、その中で各種の問題点や懸念事項等を明らかにし、広く住民の意見を聞く必要があると考えて

いる。意見等を集約するにあたり、鬼北町のみにとどまらず、松野町の住民の意見も聞く必要があると考えているので、その方法等は、合併協議会の協議に委ねたい。

〈合併問題に要した費用について〉

答 合併対策室の運営費として、昨年7月30日に提案した補正予算で140万円の負担金を支出している。これは、松野町との折半の費用として計上したものであり、総額としては280万円となるが、いまだ年度途中であるので、決算額は決定をしていない。

横 山 二 郎 議員

〈バス停留所の改善について〉

問 国道320号線沿いのバス停留所の改善について。

答 整備後30年近く経過しているので、一部スレートが破損したり、塗装が剥げたりしている場所もあるので、必要に応じ順次補修をしていきたい。バス待合所としての機能を喪失し、使用に耐えないといったものは確認されていないので、現在のところ建て替え等の計画はない。今後、建て替え等の必要が生じた場合は、より一層景観に配慮した整備に努めていきたい。

〈NPOの組織化について〉

答 地元関係者・利用者で清掃等していただくのが最善であり、現